

平成25年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【研修レポート】

- 1 実施地区：胆振地区
- 2 研修者氏名：和野忠康〔室蘭市立海陽小学校長〕
- 3 研修実施日：平成25年10月21日〔月〕～22日〔火〕
- 4 研修先：東京都三鷹市教育委員会、東京都三鷹市立第六小学校、杉並区教育委員会、杉並区立桃井第四小学校
- 5 研修目的：本校が指向する「コミュニティ・スクール」の充実
- 6 キーワード：「コミュニティ・スクール」「小中一貫」「学力向上」

1 地域の子どもを地域で育てる新しい学校づくり～学力向上にもつながる～

(1) 本校が目指す「コミュニティ・スクールを指向した学校づくり」の推進

地域に開かれた信頼される学校を実現するためには、学校には、保護者や地域住民の意見や要望を的確に反映させ、家庭や地域社会と連携していくことが求められています。同時に保護者や地域住民には、学校と共に教育に責任を負う、すなわち、「地域ぐるみで子どもを育てる」という認識の下、当事者意識をもって学校運営に積極的に協力していくことが重要となってきました。

このような中、本校は、必要感から、学校独自にコミュニティ・スクールを指向することが大切と考え、学校評議員やPTA会長、学校支援ボランティア、自治会長など、地域の代表者と協議する場〔海陽小学校型の参画型協議会(仕組み)〕を設置し、保護者・地域住民に対して「学校運営への参画」と「教育活動への参画」を積極的に働き掛けています。



(2) 海陽小学校型の参画型協議会の内容

① 協議会の設立と趣旨〔学校運営への参画〕

地域や保護者の要望や意見を学校経営に反映させるとともに、地域ぐるみで教育を行っていくことを考え、『参画型協議会』を設置しています。

② 構成メンバー

学校医、PTA会長、おやじの会代表、学校評議員、学習支援ボランティア代表、町内会代表、主任児童委員、教育行政関係者、そして、校長、教頭、主幹教諭、総務部長、教務主任、事務主幹などで構成しています。

③ 活動内容：年4・5回開催し、主に次のようなことが協議されています

- ◇目指す学校像や校長像、教師像、児童像、家庭像、地域像などの検討と設定
- ◇学校評価など(学校の内部評価、外部アンケート結果等)の説明と理解
- ◇学校経営(グランドデザイン・ビジョンなど)の説明と理解
- ◇教育課程など・学力向上の取組・研究推進計画の説明と理解
- ◇学年・学級や分掌経営の説明と理解
- ◇学校運営や教育活動の参画依頼 など

2 研修視察の動機・目的

(1) 学校運営協議会〔「海陽小型参画型協議会」〕の充実

先進地域を視察し、本校で設置している「海陽小学校型参画型協議会」の内容〔開催回数や部会制の導入、協議内容など〕の更なる充実に図りたいと考えたからです。

(2) 学習支援ボランティアの充実

学習支援ボランティアの各教科などへの参画〔教育支援〕、特に国語や算数などへの参画の更なる充実に図りたいと考えたからです。



3 視察先の状況

(1) 三鷹市立三鷹第六小学校

① 学習支援ボランティアの取組〔平成25年度1学期間〕

算数科などの教科の学習にも数多くの保護者が参画・支援し、それに伴い学力も向上

しているとのことでした。頻繁に学習ボランティアが入れる仕組みとしては、各学年の教科担当者が、次週の時間割を組む際に、直接ボランティアとメールなどで連絡し参画をお願いしているとのことでした。ちなみに参画していただいた人数は、延べ652名〔算数科に400人・英語に18人・読み聞かせ60人・生活科や総合的な学習の時間などに127人・体力テストなどの支援に47人〕に及んでおります。

② 学校運営協議会の内容

学校運営協議会は、毎月開催しているとのことでした。協議題の提示は、学校側からの場合と、運営協議会委員からの場合と両方あるとのことでした。また、運営協議会は部会〔評価部、広報部、サポート部など〕制になっていて、必要に応じてその部会を開催しているとのことでした。（活発な協議と活動が行われています）

(2) 三鷹市教育委員会

市自治基本条例に「教育委員会は、地域と連携・協力し、保護者、地域住民などの学校運営への参加を積極的に進めることにより、地域の力を活かし、創意工夫と特色ある学校づくりを行うものとする。」とうたわれ、それを受けて、教育委員会が、市教育ビジョンに明示しながらコミュニティ・スクールの推進を図っています。三鷹市のコミュニティ・スクールの特色〔2つの機能〕は、「学校運営協議会」での協議を通しての「学校運営への参画」と教育ボランティアなど、学校教育への支援による「教育活動への参画」ということです。

また、中学校区の小・中学校を学園と名付け、コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を積極的に推進しています。特に、「小中一貫カリキュラムの作成」「教職員の兼務発令・相互乗り入れ授業の実施」などがなされ、成果として、「教員の授業力の向上」、「児童生徒の学力の向上」、「不登校児童生徒数の減少」があげられていました。

(3) 杉並区教育委員会

杉並区教育委員会では、学校、家庭、地域が一体となったよりよい教育の実現を目指して、平成17年度から区立小・中学校への地域運営学校〔「コミュニティ・スクール」と呼ぶ〕の導入を図り、その拡充に向けて計画的に取り組んでいます。また、コミュニティ・スクールでは、保護者や地域住民などが「学校運営協議会」を通じて、教育委員会、校長と責任を分かち合いながら、当事者として学校運営に参画しています。この仕組みにより、学校運営や教育活動に家庭・地域の意向が一層的確に反映され、地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりが進んでいるとのことでした。

(4) 杉並区立桃井第四小学校

コミュニティ・スクールとして、保護者や地域住民の「学校運営協議会」での協議を通しての「学校運営への参画」及び教育ボランティアなどによる「教育活動への参画」が盛んに行われていました。特に、毎月開催している「学校運営協議会」の協議内容などを詳しく伺え、大変参考になりました。

また、140名程が登録している教育活動を支援する地域ボランティア〔学習支援・図書ボランティア、読み聞かせボランティア・美化ボランティア・ビオトープボランティア・ホームページボランティアなど〕、毎日のように学校の教育活動を支援して下さるとのことでした。

4 視察の成果

- 本校で設置している「参画型協議会」の内容の充実に向けて、「協議内容」や「開催回数」や「部会制の導入」などを、中身を具体的に伺えとても参考になりました。
- また、国語や算数などへの学習支援〔参画〕依頼に関わり、学年の教科担当者が時間割を組む際に、ボランティアと連絡し依頼しているなど、具体的な話しが伺え、とても参考になりました。
- コミュニティ・スクールを基盤とすることにより、より一層小中一貫教育の取組の効果が出ることが伺え、とても参考になりました。